

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年3月16日

【評価実施概要】

事業所番号	3790100162
法人名	アイコーポレーション株式会社
事業所名	グループホームあい
所在地	香川県高松市川部町1300番地1 (電話)087-886-5558

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年12月16日	評価決定日	平成22年3月16日

【情報提供票より】(平成21年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19 年 11 月 1 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤	10人, 非常勤 5人, 常勤換算 12.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(12月16日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	13名
要介護1	0名	要介護2	6名	
要介護3	5名	要介護4	3名	
要介護5	3名	要支援2	1名	
年齢	平均 87.7歳	最低	73歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高松市民病院、オサカ病院、藤井外科、西原眼科、今瀧歯科、秋山内科医院
---------	------------------------------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>(母なる 地球にやさしい)日本一のグループホームを目指す (ア)ゴミを排出しない生活 (イ)自給自足に徹する (ウ)読書に励み、知性の向上(理論武装が出来る)</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>当事業所は認知症家族の心労を少しでも軽くすること、利用者の誇りを傷つけず安心と尊厳のある生活を送ることをめざし、職員一丸となって取り組んでいる。家庭的な環境のもとで食事、入浴、排泄など日常生活の中で心身の機能訓練を行い、利用者の残存能力に応じ可能な限り自立した楽しい日々が送れるよう支援している。 また、天候のよいときには家庭菜園での野菜や季節の花壇を作ったり、それぞれ趣味に打ち込むなど、自宅感覚の楽しい共同生活を送ることで生き甲斐を再び呼び起こし、利用者の認知症進行を遅らせるなど日々の職員の努力がうかがえる。事業所の近くには運動公園もあり、交流や散策に好条件である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛・誠」の理念を共有して実践につなげている。 愛:(無制限に)赦しましょう。 誠:(無制限に)盡しましょう。	職員は理念の「愛・誠」を毎日の引継ぎ時に唱和確認、常に利用者中心にいろいろな障害を少しでも改善できるよう実践面での工夫がうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気軽に挨拶することに始まり、文化祭・運動会・地域の祭り(盆踊り、獅子舞)・敬老会その他の地域活動には、市役所出張所や婦人会の方などにご案内いただき参加しており、顔なじみになっている。また、ホームの行事に招待している。	地域に密着した生き方を目指し、地域の多くの行事や地元婦人会のイベントなどに参加し、逆にホームの七夕祭りや行事にも招待するなど、地域の交流がスムーズに行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事などにご案内し参加していただけるよう取り組んだり、運営推進会議の際に認知症についての話をし質問に対して答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方は決った方に参加していただいているが、利用者・スタッフは順番に参加し開催しており、日々の取り組み状況を報告し意見交換している。	運営推進会議は2カ月に一回、地区婦人会や地元自治会、行政関係者や利用者、ホーム代表等で構成され、現況報告、行事内容のほか、地域の要望やホームの要望など意見交換がなされサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行事開催時には来ていただける様ご案内したり、何か分からない事があれば市役所等に伺い助言をもらい協力関係を築いている。	高松市の介護保険課、地域包括支援センターと常に連絡を取り合い出向いたり、ホームの行事には招待して来てもらったりと、常にサービス向上を目指した行政との連携がうかがえる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむをえず、家族の了解をいただき身体拘束を行う場合でも、拘束廃止に向けて拘束をしない時間を持てるよう委員会を中心に随時カンファレンスを行い実行している。玄関の施錠については、リーダー研修の課題として取り組みそれ以後は、日中は施錠をしないケアが継続できている。	職員の共通理解の下、拘束禁止委員会等で随時カンファレンスを行い実施している。玄関の施錠については日中のみ解錠している。今後も継続した取り組みに期待したい。	家族の了解を得てやむをえず身体拘束を行う場合や、玄関の施錠の時間帯についても、拘束をしないケアの実践に向けて今後の工夫に期待したい。

グループホームあい(北館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したスタッフが全スタッフに報告し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用している利用者もおり、スタッフに制度の理解が出来るよう学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を十分に説明し、不安・疑問点を伺い迅速に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置したり、スタッフや利用者同士の日常の会話で不平・不満を言っているのを聞いたり、利用者の行動で感じたりし運営に反映させている。	面会時に家族から要望や、不満を極力聞きだす努力がなされている、また玄関には意見箱が設置されている、日常の生活から職員は利用者の行動で感じたことを運営に反映しサービスの向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者・全スタッフが参加する月に一度の定例会で、意見交換等をし運営に反映させている。また、管理者はスタッフの意見を必要に応じて経営者に報告している。	管理者、経営者、職員が月に一回定例会で、意見の交換や要望、不平、不満の蓄積がないように話し合い、全職員が一丸となってサービスの向上に努力する意気込みがうかがえる。今後更に期待したい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定年制の延長等、就業規則の改善を行った。経営者が、毎日1～2回早暁から深夜迄の間に来館して職員の意見や利用者の状況を把握している。職員に対しては知的向上を、利用者に対しては心配事を聞きだしている。日本一のグループホームが最終目標であると常に言っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外での研修を受ける機会は多く、必要・段階に応じて受けるよう取り組んでいる。法人内での研修は、テーマを決め少しずつ取り組んでいる。		

グループホームあい(北館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や介護サービス事業者協議会、相互評価等をきっかけに他グループホームとの交流が続いており、訪問し学んだりすることでサービスの質を向上させる取り組みが出来ている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや考えを傾聴し共感的な理解を示しつつ、安心して話せる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや考えを傾聴し共感的な理解を示しつつ、安心して話せる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスを相談時に見極め、その時に必要に応じて臨機応変な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで培ってきたことを、毎日の生活の中で一緒に考えたり、便利な方法を教えてもらったり、ごく普通の家族の雰囲気に関わり本人らしさを見つげられる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との間に入りスムーズに対応できるよう、報告や連絡をとっている。たまにしか会えない場合でも双方に距離ができないように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ほとんどの方は、身内以外の方の面会があまりなく、本人も「行きたい」と話さない。年賀はがきを出したりと、思い出せる手伝いをしたり、一部の方に面会があれば、途切れないように「また来てください」と声をかけ、来やすい雰囲気に努めている。	ホームに面会に来やすい雰囲気を作り、家族や知り合い以外にも馴染み易く、職員とも話し易い、「また行こう」「行きたい」と思える家庭的な雰囲気作りに努力している姿がうかがえる。	

グループホームあい(北館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性を把握したり、利用者同士の間をとりもったりと楽しく会話ができる場を作り、お互いに協力や思いやりがもてるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、家族が遠慮なく相談が出来やすい対応や言葉かけをするように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングで、思いや希望を聞いている。本人が分からない場合は担当者会議やアセスメントをしながら、スタッフで利用者の立場に立って考えるように努め検討している。	モニタリングで利用者の思いや希望、要望を聞いているが、意見の表出が難しい利用者の場合はスタッフ会議でアセスメントをしながら、本人本位に検討する努力がうかがえる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	定期的なアセスメントを通し再度確認し、本人や家族等とスタッフの良い関係を作りながら、これまでの暮らしやサービス経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日中と夜間時の申し送りや日誌の確認、定例会で一人ひとりの様子を話し合っ、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り時やミーティング時に意見やアイデアを話し合い、実行する時などは介護日誌にはさみスタッフが分かるようにしている。サービスに組み込んだり変化に応じてスタッフに状況の確認をしながら介護計画を作成している。	職員間で申し送りやミーティング時に意見やアイデアを話し合い、その成果の実行についても共通理解できるよう工夫している。介護計画は利用者の変化に応じて見直しがなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を確認し、スタッフ間で意見や現状の情報を共有しながらケアをしている。日々の記録・受診記録などを介護計画の見直しに活かしている。		

グループホームあい(北館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食、買い物、地域の交流に参加させていただいたり、個別にその人のニーズに対して、なるべく対応できるように取り組んでいる。病院受診等も職員が同行し不安のないよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	多彩なボランティアの訪問を受け外部との交流を行い、利用者楽しんでいただく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医やホームと連携の取れる病院の医療を受け、緊急時に備えている。	家族の意向により、かかりつけ医に行くよう連携を取っている。緊急時にはホームと連携の取れる病院に連絡受診をし、家族に連絡を取る対応も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護スタッフと看護師との連携で健康管理を行い、必要があれば受診を行う。定期往診や受診のサポートを行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書を提出してスタッフが定期的に様子を見に行き、安心して治療が出来るよう支援する。退院時には送迎を行い、注意事項を病院より聞き実施できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの方針としてターミナルケアはしていないが、利用者の重症化を伴う場合連携をしている病院で、主治医・家族との相談のうえ入院出来るよう備えている。	入居時に家族に説明し、利用者の重度化に際しては連携病院で主治医・家族との相談のうえ入院できる手立てがなされている。今後ターミナルケアについての職員の研修を期待したい。	今後重度化した時の終末期のあり方、職員の対応について、出きるだけ早期(入所時)から本人、家族、かかりつけ医等関係者との話し合いや連携統一を図るために意見交換しておくことが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフが緊急時に対応できるように、消防署より心肺蘇生法の訓練を受けており、緊急時に備えている。		

グループホームあい(北館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の際、消防署の方に来ていただき、災害時の対応について、スタッフ全員に分かるように説明を受ける。防火管理者の講習を受けたスタッフが中心となって災害対策に取り組んでいる。	防火計画により防火訓練時には消防署の指導のもと避難訓練が行われている。また、防火管理者が中心となり、夜間の災害時等の対策について地域との連携など対応が望まれる。	災害では夜間の対応が大事なので、夜間想定訓練や地域住民の協力を得るための体制と連携を構築する努力に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	掃除の際、声かけをして行うようプライバシーを守っている。	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応が行われている。記録などは関係者以外が手に取れない場所に保管。日常生活ではプライバシーの確保に職員一同気遣いがうかがえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事やレクリエーションの参加などは、本人の意思を尊重しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを見たり、新聞や本を読んだりして、一人ひとりが希望にそって過せるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コーディネートしておしゃれできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会など、利用者の好きな赤飯やバラ寿司などを作ったり、バイキング方式を取り入れたりして、喜んでいただけるよう工夫している。野菜の掃除などは、利用者に教えてもらいながら日常的に行っている。	バイキングや好みのメニューを取り入れるなど、食事を楽しんでもらえる工夫がなされ、利用者は食事の準備、配膳、下膳も自主的に手伝い、職員と楽しむ様子が見えがえる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	便秘や水分補給しにくい方には、お汁の量を増やしたり、スポーツ飲料などで摂取できるように工夫している。		

グループホームあい(北館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアを行う。必要があるときには全介助で行う。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はリハビリパンツで夜間はオムツといった様に、一人ひとりの段階に応じて、無理のない自立に向けトイレでの排泄介助を行っている。(清拭はタオルを温めている)	夜間はおむつを利用する人も日中はリハビリパンツにするなど、利用者の状態に応じ、トイレでの排泄介助が行われている。	リハビリパンツやおむつの使用を極力減らし、排泄の自立支援にむけ、トイレ誘導の工夫検討に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りでブレンドしたどくだみ茶を飲用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日・時間は決まっておらず本人の希望とまではないが、スタッフの都合に合わせることが多い。入浴したくない時は無理強いはいはしないが、清潔保持を支援している。	曜日、時間が決まった計画で入浴が実施されている。利用者が希望しない時には清拭などで清潔保持をしている。	できれば利用者の希望を取り入れられるよう計画に弾力性を持たせ、入浴しやすい雰囲気づくりの工夫に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、夜間不眠の方は日光浴や夕方足浴を行い安眠につながっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違いのないよう個人のファイルに薬の変更・指示のある時は記入し、薬局には一包化してもらえるよう依頼をし、服薬は十分に確認するよう努めている。症状の変化は、些細なことでも看護師に報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の下ごしらえ・食器洗い・お膳拭き・洗濯干し、たたみを役割としてくれており支援している。コーヒーが好きな利用者が希望時に飲めるように支援している。		

グループホームあい(北館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者からの希望や天気の良い日などに公園に散歩に出かけ、利用者が思い思いに過せるよう支援している。散髪は、ホームに来てもらっているがパーマ・毛染めがしたい時は美容院にお連れしている。	ホームの近くが公園のため天候の良い時には散歩も安心して楽しめる。理美容はホームに来てもらい、散歩では地域の方とも挨拶したり、対話することで良い人間関係が構築されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルになったことがあり、所持はなるべく控えていただき事務所でお預かりするが、自宅に戻った際に小銭を持ち帰っていることがあるので、金額確認をしている。外出する際は、預かり金より出金するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話で直接会話をしてもらえるように支援している。葉書きが届くと手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・和室には季節に合った掲示物や手作りの掛け軸を飾り工夫している。	季節の花を生け、花壇を作り、鉢物で季節感を出したり、また、廊下や和室には季節にあった掲示物や手づくりの掛け軸、装飾品などがあり、居心地よく過ごせる工夫がうかがえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端にはソファや椅子があり憩いの場として気の合う仲間と談笑できるよう工夫している。また、そのような場所を2~3箇所設けており独りで過ごすこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にある筆筒、小物はできるだけ持参してもらい使い慣れたものを使用出来るよう工夫している。ベッドより畳が好ましい方は畳を敷いている。	利用者の日頃使い慣れた家具や、生活用品、趣味の小物を持ち込むように、家族の協力を得ながら、利用者が居心地よく過ごせる工夫がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には手作りの名札を貼り、トイレには扉に大きく「トイレ」と書き工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛・誠」の理念を共有して実践につなげている。 愛:(無制限に)赦しましょう。 誠:(無制限に)盡しましょう。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気軽に挨拶することに始まり、文化祭・運動会・地域の祭り(盆踊り、獅子舞)・敬老会その他の地域活動には、市役所出張所や婦人会の方などにご案内いただき参加しており、顔なじみになっている。また、ホームの行事に招待している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事などにご案内し参加していただけるよう取り組んだり、運営推進会議の際に認知症についての話をし質問に対して答えている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方は決った方に参加していただいているが、利用者・スタッフは順番に参加し開催しており、日々の取り組み状況を報告し意見交換している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行事開催時には来ていただける様ご案内したり、何か分からない事があれば市役所等に伺い助言をもらい協力関係を築いている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむをえず、家族の了解をいただき身体拘束を行う場合でも、拘束廃止に向けて拘束をしない時間を持てるよう委員会を中心に随時カンファレンスを行い実行している。玄関の施錠については、リーダー研修の課題として取り組みそれ以後は、日中は施錠をしないケアが継続できている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したスタッフが全スタッフに報告し、虐待防止に努めている。

グループホームあい(南館)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用している利用者もおり、スタッフに制度の理解が出来るよう学ぶ機会を持っている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を十分に説明し、不安・疑問点を伺い迅速に対応している。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置したり、スタッフや利用者同士の日常の会話で不平・不満を言っているのを聞いたり、利用者の行動で感じたりし運営に反映させている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者・全スタッフが参加する月に一度の定例会で、意見交換等をし運営に反映させている。また、管理者はスタッフの意見を必要に応じて経営者に報告している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定年制の延長等、就業規則の改善を行った。経営者が、毎日1~2回早暁から深夜迄の間に来館して職員の意見や利用者の状況を把握している。職員に対しては知的向上を、利用者に対しては心配事を聞きだしている。日本一のグループホームが最終目標であると常に言っている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外での研修を受ける機会が多く、必要・段階に応じて受けるよう取り組んでいる。法人内での研修は、テーマを決め少しずつ取り組んでいる。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や介護サービス事業者協議会、相互評価等をきっかけに他グループホームとの交流が続いており、訪問し学んだりすることでサービスの質を向上させる取り組みが出来ている。

グループホームあい(南館)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや考えを傾聴し共感的な理解を示しつつ、安心して話せる関係作りに努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや考えを傾聴し共感的な理解を示しつつ、安心して話せる関係作りに努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスを相談時に見極め、その時に必要に応じて臨機応変な対応に努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで培ってきたことを、毎日の生活の中で一緒に考えたり、便利な方法を教えてもらったり、ごく普通の家族の雰囲気に関わり本人らしさを見つけられる関係を築いている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との間に入りスムーズに対応できるように、報告や連絡をとっている。たまにしか会えない場合でも双方に距離ができないように配慮している。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ほとんどの方は、身内以外の方の面会があまりなく、本人も「行きたい」と話さない。年賀はがきを出したりと、思い出せる手伝いをしたり、一部の方に面会があれば、途切れないように「また来てください」と声をかけ、来やすい雰囲気に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性を把握したり、利用者同士の間をとりもったりと楽しく会話ができる場を作り、お互いに協力や思いやりがもてるように努めている。

グループホームあい(南館)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、家族が遠慮なく相談が出来やすい対応や言葉かけをするように努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングで、思いや希望を聞いている。本人が分からない場合は担当者会議やアセスメントをしながら、スタッフで利用者の立場に立って考えるように努め検討している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	定期的なアセスメントを通し再度確認し、本人や家族等とスタッフの良い関係を作りながら、これまでの暮らしやサービス経過等の把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日中と夜間時の申し送りと日誌の確認、定例会で一人ひとりの様子を話し合っ、現状の把握に努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り時やミーティング時に意見やアイデアを話し合い、実行する時などは介護日誌にはさみスタッフが分かるようにしている。サービスに組み込んだり変化に応じてスタッフに状況の確認をしながら介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を確認し、スタッフ間で意見や現状の情報を共有しながらケアをしている。日々の記録・受診記録などを介護計画の見直しに活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食、買い物、地域の交流に参加させていただいたり、個別にその人のニーズに対して、なるべく対応できるように取り組んでいる。病院受診等も職員が同行し不安のないよう取り組んでいる。

グループホームあい(南館)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	多彩なボランティアの訪問を受け外部との交流を行い、利用者に楽しんでいただく。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医やホームと連携の取れる病院の医療を受け、緊急時に備えている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護スタッフと看護師との連携で健康管理を行い、必要があれば受診を行う。定期往診や受診のサポートを行う。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書を提出してスタッフが定期的に様子を見に行き、安心して治療が出来るよう支援する。退院時には送迎を行い、注意事項を病院より聞き実施できるようにしている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの方針としてターミナルケアはしていないが、利用者の重症化を伴う場合連携をしている病院で、主治医・家族との相談のうえ入院出来るよう備えている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフが緊急時に対応できるように、消防署より心配蘇生法の訓練を受けており、緊急時に備えている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の際、消防署の方に来ていただき、災害時の対応について、スタッフ全員に分かるように説明を受ける。防火管理者の講習を受けたスタッフが中心となって災害対策に取り組んでいる。

グループホームあい(南館)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	体力的にレベル低下し、以前は出来ていたことが少しずつ出来なくなっているが、自分で出来ることに自信や信念を持っている方がおり、尊重しながら支援をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から希望を訴えることはあまりないが、利用者同士の会話の中でよく話しており、その中から希望を知ること努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	仲の良い利用者と過ごしたい人と、一人で過ごしたい人、それぞれのペースを大切にしている。談話中スタッフも仲間入りする。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分で衣類を選んでもらえるよう声かけをしている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会など、利用者の好きな赤飯やバラ寿司などを作ったり、バイキング方式を取り入れたりして、喜んでいただけるよう工夫している。野菜の掃除などは、利用者に教えてもらいながら日常的に行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が確保出来るよう、自分で飲むことが可能な方には、ペットボトルにお茶をいれ手渡している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアが難しい利用者には、入浴時にしっかりと口腔ケアをするようにしている。

グループホームあい(南館)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	終日オムツの方も、訴え時はトイレ誘導をし、トイレにて排泄出来る事もある。(清拭はタオルを温めている。)
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りでブレンドしたどくだみ茶を飲用してもらっている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・時間は決まってお本人の希望とまではいかず、スタッフの都合に合わすことが多い。入浴したくない時は無理強いはないが、清潔保持を支援している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、日中睡眠をとっても夜間良眠できている方はその方のペースを尊重している。下肢のエアーマッサージをすると、気持ちよさそうにうたた寝している方も多。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違いのないよう個人のファイルに薬の変更・指示のある時は記入し、薬局には一包化してもらえるよう依頼をし、服薬は十分に確認するよう努めている。症状の変化は、些細なことでも看護師に報告し対応している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	図書館に本を借りに行ったり、新聞や雑誌の購入をしたり、広告を切って折り紙をしたりと、それぞれの楽しみごとを支援している。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者からの希望や天気の良い日などに公園に散歩に出かけ、利用者が思い思いに過せるよう支援している。

グループホームあい(南館)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルになったことがあり、所持はなるべく控えていただき事務所でお預かりするが、自宅に戻った際に小銭を持ち帰っていることがあるので、金額確認をしている。外出する際は、預かり金より出金するようにしている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話で直接会話をしてもらえるように支援している。葉書きが届くと手渡している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・和室には季節に合った掲示物や手作りの掛け軸を飾り工夫している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端にはソファや椅子があり憩いの場として気の合う仲間と談笑できるよう工夫している。また、そのような場所を2~3箇所設けており独りで過ごすこともできる。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にある筆筒、小物はできるだけ持参してもらい使い慣れたものを使用出来るよう工夫している。ベッドより畳が好ましい方は畳を敷いている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には手作りの名札を貼り、トイレには扉に大きく「トイレ」と書き工夫している。